

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)	◎	*	*	*
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数が徐々に増えており、それに伴って売上も上向いてきている。
	○	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・前年10月中旬から人流の回帰傾向が続いていたが、1月中旬以降の新型コロナウイルスオミクロン株の大流行に伴い、再び巣籠り傾向に変化している。それに伴って、来客数が落ち込んでいるものの、買上点数は増加傾向となっている。
	○	スーパー（企画担当）	競争相手の様子	・飲食店の利用が活発化している。また、同業者の新規出店もみられ、生活者が店舗を使い分けている様子もみられる。
	○	スーパー（役員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大により小学校などの休校が相次いでいる。昼食需要として冷凍食品、カップ麺、菓子パンなどが急に売れ出した。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・例年冬場は厳しくなる時期だが、人気車種の新型車が発売されるなど、売れる車があるため、台数の落ち込みをカバーできている。会社全体で目標販売台数を達成しており、景気は上向きとなっている。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3か月前は自動車メーカーの生産台数が落ち込んでいたことで、受注量も納車による売上も減少していたが、現在は回復している。
	○	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響が長引いているが、良い意味での慣れが客にみられるようになっている。健康状態を維持しようという客の意識が強く、1月の経営指標はここ3年同じような数値で推移しており、明るさが感じられる。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・客との会話で新型コロナウイルスの話題がたくさん出てくることから、景気は決して良い状態ではない。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・1月に入り、新規感染者数が増加していることで警戒感が強まっている。新年会などの中止を決定する事業所も多くみられ、夜に外出する来街者も少ない状況にある。また、灯油の高止まりが改善されないことで、昼間においても客の出控え傾向が継続している。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・当社は観光地にあり、冬休みや正月休みは帰省客が増えたにもかかわらず感染拡大の動きなどもみられず、好調であった。ただ、成人式をきっかけに感染拡大が生じており、その状況は目に余るものとなっている。
	□	百貨店（営業販促担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大に伴い、1月中旬以降来客数が減少傾向にある。1月27日からまん延防止等重点措置が適用されたことで、来客数はますます減少するとみられる。年末年始の売上や年配客の動きは回復傾向にあったが、現在はストップが掛かった状態となっている。
	□	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・正月商戦は前年よりも若干にぎわいを取り戻し、その後も新生活準備での稼働がみられたが、一般客の買上が相変わらず渋い。前年と違うことは成人式と新生活の動きがあった程度である。
	□	家電量販店（店員）	来客数の動き	・1月前半は例年どおりの客足がみられたが、後半は激減している。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車が発表され、メーカーにおける車の増産体制が決まった途端、新型コロナウイルスの感染再拡大と半導体不足による工場の稼働停止による減産が生じ、売上につながらない状況となっている。影響は中古車販売にも広がり、収益が低下している。
	□	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格の高値が続いていることで、客の節約志向が強まっている。
	□	旅行代理店（従業員）	それ以外	・景気が良くなってきたと思いきや、あっという間に第6波が拡大したことで、以前の悪い状態に戻った。
	□	旅行代理店（従業員）	それ以外	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大の影響がみられる。

□	美容室（経営者）	来客数の動き	・ 現在新型コロナウイルスの感染状況が悪化しているが、来客数及び売上は減少していない。以前のように新規感染者数の増減で売上の変化が起きない状況となっている。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・ 売上は前月よりも落ち込んでいるが、前年並みの水準を保っている。
□	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・ 悪天候による欠航の影響もあるが、新型コロナウイルスの感染再拡大の影響が続いていることもあり、景気はそれほど変わっていない。
▲	商店街（代表者）	販売量の動き	・ 全体的に輸出入の動きが鈍化している。また、原油や原材料費の高騰も続いている。食品業界においては今年の春節が前年と比べて早くなったことの影響もみられる。
▲	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・ 新型コロナウイルス新規感染者数が再び増加した影響により、来客数が減っている。1月上旬まで好調だった売上が中旬以降落ち込んできている。
▲	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・ 新型コロナウイルス新規感染者数の増加に伴い、来客数、買上客数の減少が顕著になっている。この状況はしばらくの間続くことになる。
▲	百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・ 来客数の前年比をみると、10月が95%、11月が95%、12月が91%となっており、前年から若干のマイナスで推移していたものの、1月は19日まで前年以上の来客数で推移していた。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、1月20日以降は来客数が大きく減少している。1月25日現在の来客数は前年比97%となっている。
▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・ 初売りまでは好調であったが、1月中旬の大雪や新型コロナウイルス第6波の影響で来客数が減少している。道路の除排雪が進んでいることで大雪の影響は解消されつつあるが、まん延防止等重点措置の適用がニュースになり始めてからは客が外出を控える傾向が強まっている。特に夕方以降の落ち込みが顕著である。
▲	スーパー（従業員）	単価の動き	・ 客単価が低下傾向にある。食料品の値上がり、ガソリン価格の高騰などによって、客の生活防衛意識が高くなっているためとみられ、この傾向は今後も続くことになる。
▲	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・ 新型コロナウイルスの感染拡大が影響し、全体的に消費が縮小傾向にある。ただ、大型スーパーなどが敬遠される一方で、地方の小規模商店などでは客のニーズにしっかりと応えることで、若干のプラスアルファにつながっているケースもみられる。
▲	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・ 北海道にもまん延防止等重点措置が適用されることで、消費者の行動が制限されることになる。また、様々な商材が値上がり傾向にあることから、店舗の購買が落ち込むとみられる。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ 新型コロナウイルスの新規感染者数が激増しており、先行きの見通しに不安を覚えている。
▲	家電量販店（経営者）	来客数の動き	・ 新型コロナウイルス発生前の状況に戻りつつあったが、月半ばから新型コロナウイルスオミクロン株が感染拡大している影響で、来客数や電話での問合せが激減しており、売上が減少傾向にある。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ 新型コロナウイルスの影響により、工場の稼働が当初の予定どおりに進まず、新車登録のできない状況が続いている。客からスタッフへの問合せも多数入っており、対応に時間が取られ、思うような活動ができていない状況にある。また、来客数や受注台数も少しではあるが前年から減少している。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ 感染拡大に伴い、まん延防止等重点措置が適用されたため、来客数が減少している。

▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・年末年始までは航空需要が堅調に回復していたが、1月中旬からの全国的な新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大により、ビジネス需要、観光需要が急激に減退している。道民割などの需要喚起策も休止となり、感染拡大が落ち着くまで回復が期待できない状況となっている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・オーダー件数がやや減少している。夜間の飲食店関係の利用も若干の減少傾向となっている。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染スピードが速く、人流が抑制されているため、営業収入の減少につながっている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・年末年始までは良かったが、ここに来て新型コロナウイルスオミクロン株が増加し始め、北海道にもまん延防止等重点措置が適用されたことから、目に見えて来客数が落ち始めている。今回は北海道全域が措置区域となっていることから、景気はまだまだ悪くなる。
▲	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・専門店舗への来客数は横ばいであるが、大型商業施設などでの出店販売において利用客が減少しており、発生する費用に対する効率が大きく悪化しつつある。さらに、人口の多い都市部を中心に競合他社への流出が前年よりも増えている。
▲	観光名所（従業員）	来客数の動き	・年末年始は来客数、特に団体客人数の復調が顕著であり、このまま上向いていくという流れを感じていたが、新型コロナウイルスオミクロン株の感染爆発で1月11日頃から、そうした動きがすっかり停滞してしまった。この状態はしばらく続くかと覚悟している。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・繁忙期に向かうなか、新型コロナウイルスの感染が流行していることで行事などの中止や縮小が続いている。
▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンション市場の客の多くは新型コロナウイルスオミクロン株を警戒しており、モデルルームに来訪する人数が減っている。込み入った商談もできない状態となっている。
×	商店街（代表者）	お客様の様子	・北海道では1月27日からまん延防止等重点措置が適用されたが、それより早い24日には通行客が大幅に減少した。やはり新規感染者数の増加に敏感な客が多く、今までの対策期間よりも売上が大幅に減少しており、商店街や各店舗では壊滅的な売上減に悩まされている。また、飲食店への補助がある一方で、他業種、特に観光業界については、壊滅的な打撃を受けているにもかかわらず支援が全くなく、おかしいと感じている。
×	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・3か月前の秋口から新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き始めたことから、客が少しずつ増えていた。特に年末年始は、久しぶりに帰省する家族連れがかなりみられた。しかしながら、最近になって新型コロナウイルスオミクロン株が拡大してきていることから、来客数が再び落ち込んできている。
×	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・12月までは順調に回復していたが、1月に入り新型コロナウイルスオミクロン株による感染が激増し、27日から再びまん延防止等重点措置が適用されたことで景気が悪くなっている。特に飲食店における酒類提供が規制されたことで、当社もほぼ休業状態のような状況となっている。
×	スーパー（店長）	それ以外	・年明けから新型コロナウイルスの第6波が到来し、北海道にもまん延防止等重点措置が適用されたことから、景気は悪くなっている。

	×	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・年末年始はかなりの来客数がみられたが、1月10日過ぎから急に夜間の売上が減少したことで、売上は例年の50%にも達せず、景気は悪くなっている。ランチの売上はまずまず良かったが、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えるたびに来客数が減っている。また、まん延防止等重点措置が適用されたことから、当店では営業時間を短縮して夜間の営業を続けることを予定しているが、状況によってはランチの営業のみとなるかもしれない。周りの店の状況を見ると、個人経営のレストランは営業するケースが多い一方で、酒主体の夜の飲食店は休業するケースが多いようだ。
	×	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の影響で新型コロナウイルスの新規感染者が過去の緊急事態宣言時よりも増加し、首都圏などでまん延防止等重点措置が適用されたことで、観光客の動きが10日過ぎから完全にストップしている。まん延防止等重点措置は北海道でも適用される見込みだが、既に新規感染者数が増加していることで外出を自粛しているのか、地元客の動きも鈍い。
	×	スナック(経営者)	来客数の動き	・1月の始めは多少良かったが、14~15日頃にまん延防止等重点措置の話が出てからは客が来なくなった。まん延防止等重点措置が適用されてからは、来客数がほぼゼロとなるなど、最悪の状況となっている。
	×	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・全国的に新型コロナウイルス感染が再拡大していることで、旅行会社からのキャンセルが相次いでいる。さらに、北海道においてもまん延防止等重点措置が適用されることから、キャンセルはもちろん、新規予約も完全にストップしており、予約状況が悪化している。
	×	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・宿泊や宴会の予約について、回復の兆しがみえていたが、感染拡大に伴って予約が軒並みキャンセルとなっている。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・1月中旬までは人出が戻りつつあった。また、大雪の影響による需要増もプラスであった。さらに、道路が大渋滞となるなど、輸送効率が悪かったことから、タクシー1台当たりの売上は前年を大きく上回り、新型コロナウイルス発生前の前々年のマイナス10%程度まで回復するほどであった。しかしながら、下旬になり、新型コロナウイルス新規感染者数が増えるとともに人出が減り、タクシーの需要も前年並みまで減った。月全体では前年比プラス10%、前々年比マイナス30%となった。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・前々年比80%まで回復していたが、過去の感染者数とはけた違いの第6波が到来したことで人出が大きく落ち込んでいる。外出や外食の機会が一気に縮小している。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・新規感染者数が増えたことで、1月14日頃から客の外出自粛が始まっている。特にまん延防止等重点措置が適用された1月27日から2月20日までは、人の外出機会がますます減ることになり、夜間の人出も激減することになる。
	×	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの第6波が来たことで、消費、観光、飲食などが相当落ち込んでいる。住宅建築のムードにも水を差すことが考えられるほどである。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	家具製造業(経営者)	競争相手の様子	・新型コロナウイルスの第6波が生じているが、競合各社において積極的な新店舗展開や新ビジネス展開を進める様子がみられることから、景気はやや良くなっている。
	○	建設業(役員)	受注量や販売量の動き	・雪害による影響は限定的であり、新型コロナウイルス感染第6波の直接的な影響も今のところみられない。各現場では完工期に入り、工期短縮と追加工事契約がプラス要因となって、想定以上の利益額を上積みできている。

	○	その他サービス業 [建設機械レンタル] (総務担当)	受注量や販売量の動き	・大雪の影響などもあり、当社の売上は前年比で10%近い伸びを示している。ただ、新型コロナウイルスオミクロン株の急速な感染拡大が懸念材料となっている。
	□	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較して受注量に変化がみられない。
	□	通信業 (営業担当)	取引先の様子	・実需に一定の動きがみられ、景況感としてはやや良い状況を維持している。一方、取引先の様子をみると、これまでよりやや慎重な動きがうかがえる。
	□	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響が小さくなったとは感じられないが、年末年始に人の往来が多くみられたことで、経済も多少は良くなっている。ただ、不動産関係については、冬期間を迎えて取引が低調に推移するなど、活発な動きはみられていない。
	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・年明けから新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に増えている。今回の新型コロナウイルスオミクロン株については仕事での外出であっても感染の恐怖を感じさせるほどであり、これまでの何となく他人事のような雰囲気もなくなっている。今のところ、不動産関連の受注量に大きな変化はみられないが、感染すれば業務を一時休止しなければならず、今後に向けての不安が高まっている。
	□	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	・売上は予測値を上回る実績が出ているなど、伸びているように感じるが、スポット案件の受注があったためである。ベース商材の販売量が少しずつ落ちているため、安心できない状況にある。
	▲	金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・11月の住宅着工棟数が前年を下回っている。
	▲	建設業 (従業員)	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響もあるようだが、直近においてウレタンの納入が難しくなっている。トイレの便座も同様の状況にあるらしく、建設に必要な資材が入ってこないことで、工期の延長や経費増が見込まれる。
	▲	輸送業 (支店長)	受注量や販売量の動き	・コンテナ不足の影響で、特に輸出入の取扱量が通常時と比べて減少傾向で推移している。
	▲	金融業 (従業員)	取引先の様子	・新型コロナウイルスオミクロン株の急拡大とエネルギー価格の上昇が持ち直しのみられた個人消費を下押ししつつある。北海道に適用されたまん延防止等重点措置も消費マインドを後退させており、道内景気はコロナ禍が沈静化していた3か月前と比べてやや悪くなっている。
	×	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・1月の販売量は前年比マイナス21%となっている。3か月前の10月の販売数は前年比マイナス2%だったため、景気は悪くなっている。
雇用関連	◎	—	—	—
(北海道)	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人依頼は増加傾向にある。ここ数か月は中小企業からの求人も増えており、特に営業や経理の求人が目立っている。中堅企業においてはアフターコロナを見据えて、デジタルトランスフォーメーションに関連した人材を要望する動きもみられる。また、アフターコロナの業績回復に向けて、営業の強化やシステムと連動した事業拡大を考える企業も散見される。
	○	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・当地における12月の有効求人倍率は0.89倍であり、3か月前と比べて0.03ポイント上回った。
	○	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・2023年の新卒予定者を対象とした学内合同企業説明会について、各業界からの出展申込みが軒並み好調であり、企業側の新卒採用意欲の回復がうかがえる。
	□	求人情報誌制作会社 (編集者)	周辺企業の様子	・まん延防止等重点措置の適用による中心繁華街へのダメージが大きい。一時的な影響とみられるが、飲食関連からの求人数が減少している。
	□	求人情報誌制作会社 (編集者)	求人数の動き	・新規感染者数が増加するなか、求人数が増加するというこれまでみられなかった現象が起きている。飲食店や宿泊業などの求人も増えており、ほぼ全業界が堅調に推移している。3～4月の需要を見据えた動きのようにもみえる。

□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・3か月前は緊急事態宣言が解除されたこともあり、年末の繁忙需要に備えた食品製造や物流、消費活動に関連した小売、飲食などの業界で求人が多くみられた。一方、現在は極端に目立つような求人を行う業種はみられないが、業種的な偏りもなく、平均的に必要に応じた求人活動が行われている。
□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの影響が長く続くなか、新型コロナウイルス関連の融資を受けている会社は結構あるようだが、既に返済が始まっていたり、自転車操業に近いような会社もあると聞いている。こうした状況を踏まえると、景気はまだ上向いていない状況にある。
□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・12月の新規求人数は増加しているが、新規求職申込件数が減少していることから、求職者は依然として新型コロナウイルスの感染状況をみながら求職活動の開始時期を見計らっているとみられる。
▲	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・前年10月の緊急事態宣言明けから続いていた回復基調がここに来て急速にしぼんでいる。
×	—	—	—